

デジタル版劇場初公開!全3000タイトルから選りすぐりの映像をスペシャルゲストを迎えて七夜一挙上映!!

11/20  
赤坂憲雄  
(民俗学者)

11/19  
関野吉晴  
(探検家)

あたりまえの「生」の集積から  
いまなにが見えてくるだろう？

11/21  
荒俣宏  
(博物学者)

20世紀の世界中の人びとの暮らし  
生きものの生態を記録した映像の百科事典  
エンサイクロペディア・シネマトグラフィ  
を見る

11/23  
U-zhaan  
(タブラ奏者)  
×  
長嶋りかこ  
(グラフィックデザイナー)

11/22  
眞田岳彦  
(衣服造形家)

11/25  
中村桂子  
(生命誌研究者)  
×  
石原あえか  
(ゲーテ研究者)

11/24  
森枝卓士  
(写真家)  
×  
高田ゆみ子  
(翻訳家)

<http://ecfilm.net/>

# デジタル版劇場初公開!



ECフィルムはこれまで16mmフィルムで保管、上映されてきました。映像のデジタル化の波とともに映画館からは35mm映写機が消え、16mmフィルムでの映写は以前にも増して上映の機会が限られていました。しかし、技術の進化とともに映像そのもののデジタル化も進み、再び上映への窓が開かれつつあります。ECは現在約3000タイトルのうち、400弱のタイトルがデジタル化され、このほど劇場初公開となります。



## 一から自分で作る暮らし Guest 関野吉晴

グレートジャーニーで世界を旅した関野吉晴さんと「一からつくる」人びとの技を覗きます。

- ◎カミキリムシ幼虫採集と料理 赤道アフリカ/サンガ地方(ビンガ・ビグミー族) 1977年撮影
- ◎マニオクの晒し 東ペルー/セルヴァ(ウィト族) 1970年撮影
- ◎アシ舟"カバリト"づくり 北ペルー/西海岸 1962年撮影 ほか

### 関野吉晴 (探検家)

大学在学中より25年間アマゾン川漂流など南米を旅する。現地での医療の必要性を感じ、外科医となってお通い続けた。93年より人類がユーラシア大陸経由でアメリカ大陸まで拡散した約5万3千キロを自らの力で進むグレートジャーニーを始める。現在は武蔵野美術大学教授、学内での授業を記録した映画「カレーライスを一からつくる」今秋公開。



# 11/19

## 異形のモノがやってくる 世界の祭 Guest 赤坂憲雄

世界中の不思議な儀礼、儀式を赤坂憲雄さんと一緒に体験します。

- ◎丸太を持つての儀礼的駅伝競争 ブラジル/トカンティンス地方(クラホ族) 1949年撮影
- ◎クラウバウフ行進の巨大な仮面(行動研究) 中央ヨーロッパ/チロル 1966年撮影
- ◎娯楽の情景 東グリーンランド/アンマサリック地方(エスキモー) 1962年撮影 ほか

### 赤坂憲雄 (民俗学者)

学習院大学教授、福島県立博物館館長、遠野文化研究センター所長。民俗学をベースに東北の文化や歴史を掘り起こす「東北学」を提唱。震災後は東日本大震災復興構想会議の委員を務め、東北の復興について、積極的に発言を続けている。著書に「真人論序説」、「東北学/忘れられた東北」、「岡本太郎という思想」、「震災考」ほか多数。



# 11/20

インサイク  
シネマ  
七夜一

## 生きものの驚異と不思議 Guest 荒俣宏

「ECフィルムは研究者の「意気」にあふれた宝の山!」ECに潜む生物たちを荒俣宏さんと観察します。

- ◎ドウジャルダクマムシ オーガニゼーションと生殖 1969年撮影
- ◎ムラサキホコリカビの一種 変形体相 1972年撮影
- ◎ウデムシの一種 精英の授与 1971年撮影 ほか

# 11/21



### 荒俣宏 (博物学者)

作家、翻訳家、博物学・幻想文学研究者。ジャンルを超えた執筆活動を続け、その訳著書は300冊を超える。博物画や稀蔵書の収集家でもある。1987年「帝都物語」で日本SF大賞、1989年「世界大博物図鑑」でサントリー学芸賞受賞。TVなどでも活躍。海中の不思議な生物の観察や飼育を愛好。EC映像活用委員会の応援団長。



## 糸、世界の植物を紡ぐ Guest 眞田岳彦

植物から取り出す「糸」は人類の大発見。世界中の糸づくりを眞田岳彦さんと旅します。

- ◎綿紡ぎ タイ/チェン・ライ県(アカ族) 1965年撮影
- ◎竜舌蘭繊維の糸づくりと紐づくり コロンビア/シェラ・ネヴァダ・デ・サンタ・マルタ(アルファコ族) 1969年撮影
- ◎ココヤシ繊維の紐づくり エリス諸島/ニュータオ島(ポリネシア人) 1960年撮影 ほか

### 眞田岳彦 (衣服造形家、女子美術大学特任教授、東北芸術工科大学客員教授)

衣服/繊維を通して「地域+人づくり」に取り組み。85年ISSEY MIYAKE INC.勤務。92年渡英。93年北極圏グリーンランド滞在。94年彫刻家リチャード・ディーコンの助手。95年SANADA studio設立。03年眞田塾設立。04年心の防災衣服「プレファブコート」開始。11年国立民族学博物館外来研究員。11年衣服造形七月七日会設立。これまで国内外で展覧会、地域プロジェクトを多数開催。[著作]「IFUKU衣服」(六耀舎)。「考える衣服」(スタイルノート)他。



# 11/22

火

## ECフィルムの活用

ECフィルムは貸出も行ってあります。貸出システムを見直し、お気軽にご利用いただけるようになりました！個人視聴・研究利用はもちろんのこと、上映会での利用など、幅広くご利用いただけます。デジタル化が進んでいないタイトルも、今後随時進めていきたいと思っています。

詳しくはwebにて

個人視聴・研究利用→<http://ecfilm.net/rent-for-private>

上映会利用→<http://ecfilm.net/rent-for-screen>

## 世界音楽入門 Guest U-zhaan 長嶋りかこ

世界は音楽でいっぱい！土地ならではの音楽、楽器をU-zhaanさん、長嶋りかこさんと訪ねます。

- ① 打楽器の演奏 西アフリカ 象牙海岸(パウレ族) 1968年撮影
- ② バリの音楽のリズム型 バリ島/カラングセム地区 1973年撮影
- ③ フィーデル"サラング"づくり 中央アジア/ネパール(ガイネ族) 1966年撮影 ほか



### U-zhaan (タブラ奏者)

2010年にU-zhaan × rei harakamiとして「川藤ヨウヂゲ」[「ミスターモーニングナイト」]をリリースした。2014年には坂本龍一、Cornellius、ハナレグミ等をゲストに迎えたソロ名義のアルバム「Table Rock Mountain」を発表。2016年には映画「マンガをはみ出した男 赤塚不二文」の音楽をU-zhaan + Shuta Hasunumaで担当し、ボーカルにタモリをフィーチャリングした主題歌が話題となった。



### 長嶋りかこ (グラフィックデザイナー)

主にVI計画、装丁、建築のサイン計画など手がける。これまでの仕事に札幌国際芸術祭2014の総合デザインや、荒木経惟×name「アラマメ」の装丁、YMO「NO NUKES 2012」のCDジャケットデザイン、BAGBAO ISSEY MIYAKEとのコラボレーションなどがある。



# 11/23

水

## 食べているのは生きものだ Guest 森枝卓士 高田ゆみ子

古今東西、人びとは何を食べて生きてきたのか？

森枝卓士さん、高田ゆみ子さんと紐解きます。

- ① ヴィルアンダースの家庭の屠殺 ベーコンとソーセージづくり 中央ヨーロッパ チロル 1979/80年撮影
- ② ムングゴンナの女たちの豚の解体と調理 西ニューギニア 中央高地/アイボ族 1976年撮影
- ③ フクロネズミの料理と食事 西ニューギニア 中央高地/ファ族 1976年撮影 ほか

# 11/24

木

### 森枝卓士 (写真家)

熊本県水俣市出身。写真家、食文化研究者。大正大学客員教授、早稲田大学等でも食文化を講じる。国際基督教大学教養学部社会科学科卒業。東南アジアを中心に世界中で取材。「食べもの誌」『カレーライスと日本人』『食べているのは生きものだ』など食文化に関する著書、多数。



### 高田ゆみ子 (翻訳家)

大阪府出身。東京外国語大学ドイツ語学科、東京大学大学院比較文学比較文化修士課程修了。訳書、G・パウゼヴァング『最後の子どもたち』『みえない壁』(小学館)『そこに僕らは居合わせた』『片手の顔面配達人』(みすず書房)、『ロバート・キャバ』(スペイン内戦) (岩波書店)『シャーパー』(グルダール・キャバが愛した女性写真家の生涯) (神保社)など。



ロペティア  
グラフィカ  
拳上映!



## 自然へのまなざし、その歩み Guest 中村桂子 石原あえか

人間は自然をどう捉えてきたのか？中村桂子さん、石原あえかさんと探ります。

- ① ヨーロッパアカガエル 卵割と胚発生 1986年撮影
- ② モモイロベリカン 共同漁労 1979年撮影
- ③ 農家の夕食 中央ヨーロッパチロル 1966年撮影 ほか

### 中村桂子 (生命誌研究者)

1964年東京大学大学院生物化学修了後、国立予防衛生研究所研究員、三菱化成生命科学研究所部長等を歴て、89年早稲田大学人間科学部教授、93年に「生命誌研究雑誌」編集長となり、02年より部長を務める。「生きもの」感賞で生きる(講談社)など著書多数。生命誌を巡る旅が記録映画『水と土と生きもの』(監督:藤原謙夫)となり15年公開。



### 石原あえか (ゲート研究者)

東京大学大学院総合文化研究科准教授(ドイツ・ケルン大学Ph.D.)。ゲートと近代自然科学を研究テーマとする。ドイツ語専攻Göthe Buch der Natur(2005)により、ドイツ学術交流会(DAAD)グリン賞を受賞、日本学術振興会賞および日本学士院学術奨励賞、「科学する新人ゲート」(慶應義塾大学出版会、2010)によりサントリー学芸賞。2013年、ドイツ連邦政府よりシュールホルツ賞受賞。新刊に『近代測量史への旅』(法政大学出版局、2015)がある。



# 11/25

金

※記載は上級子定タイトルの一部です。上級タイトルは変更の可能性あります。※民族名、撮影地名には、現在では用いられない名がございすが、製作当時の表記を尊重しました。

## 映像をフィールドワークする、 ECフィルムの世界へ

ECフィルムは、世界中の人間の暮らし、生きものの生態を記録した映像の百科事典。世界丸ごとの記録を試みた映像アーカイブは、唯一無二のものといえるでしょう。

例えば、電気も水道もないスーダンの家族の食卓、木の皮をただただを叩いて布ができていく様子、食べ、食べられ、生み増える粘菌や微生物…

どこにいても人は身近にあるものを集めて道具をつくり、狩りをし、火を起し、調理して食べ、子どもを産み、家をつくり、楽器を奏で、踊り、死んでいく。そして他の生きものたちも、変わることなく個性豊かな生を全うする。あたりまえの「生」の集積であるこの映像群は、時を経て何を伝えているでしょう。

私たちの暮らしはいま、ECフィルムが撮られた時代に比べて格段に便利になりました。しかし近年、様々な自然災害を目の当たりにした日本では「生きていくために本当に必要なものはなにか?」「それは自分の手で作れるのか?」「生きることの本質は何だろうか?」という問いにぶつかった人も多いのではないのでしょうか。

ECフィルムには、その答えが宿っています。このフィルムから何を感じ、何を読み取り、何を受け取るか。その形は幾通りにもあるでしょう。映像の中に、探しに来てください。



## インサイクロペディア・シネマトグラフィ = ECフィルムとは?

1952年ドイツ・国立科学映画研究所ではじまった映像の百科事典計画。民族学、生物学、技術科学の3つのジャンルからなり、30年近くを費やして数多くの研究者・カメラマンが世界各地に赴き、現在は失われた暮らしの技法や儀礼などの貴重な記録を含む、3000タイトル強の映像アーカイブが制作されました。現在400弱のタイトルがデジタル化され、日本国内向けに貸出ししています。

WEB: <http://ecfilm.net/>



主催: 公益財団法人下中記念財団

企画: 下中邦彦記念映像活用委員会 / EC活用プロジェクト(下中菜穂、丹羽朋子、飯塚利一、佐藤有美、ポレポレタイムス社) 映像提供: 公益財団法人下中記念財団  
協力: 株式会社 東京光音 / トライネット・ロジスティクス株式会社 / ほぼ日刊イトイ新聞 / JT生命誌研究館 / NPO法人FENICS / ポレポレ東中野 宣伝美術: 大橋祐介

# 11/19 土 → 25 金 連日 19:00~

料金: 2,000円(一律) チケットぴあにて発売中(Pコード: 556-138)



### ポレポレ東中野

TEL 03 3371 0088  
www.mmjp.or.jp/pole2/  
JR東中野駅西口改札北側出口より徒歩1分  
地下鉄大江戸線東中野駅A1出口より徒歩3分

